

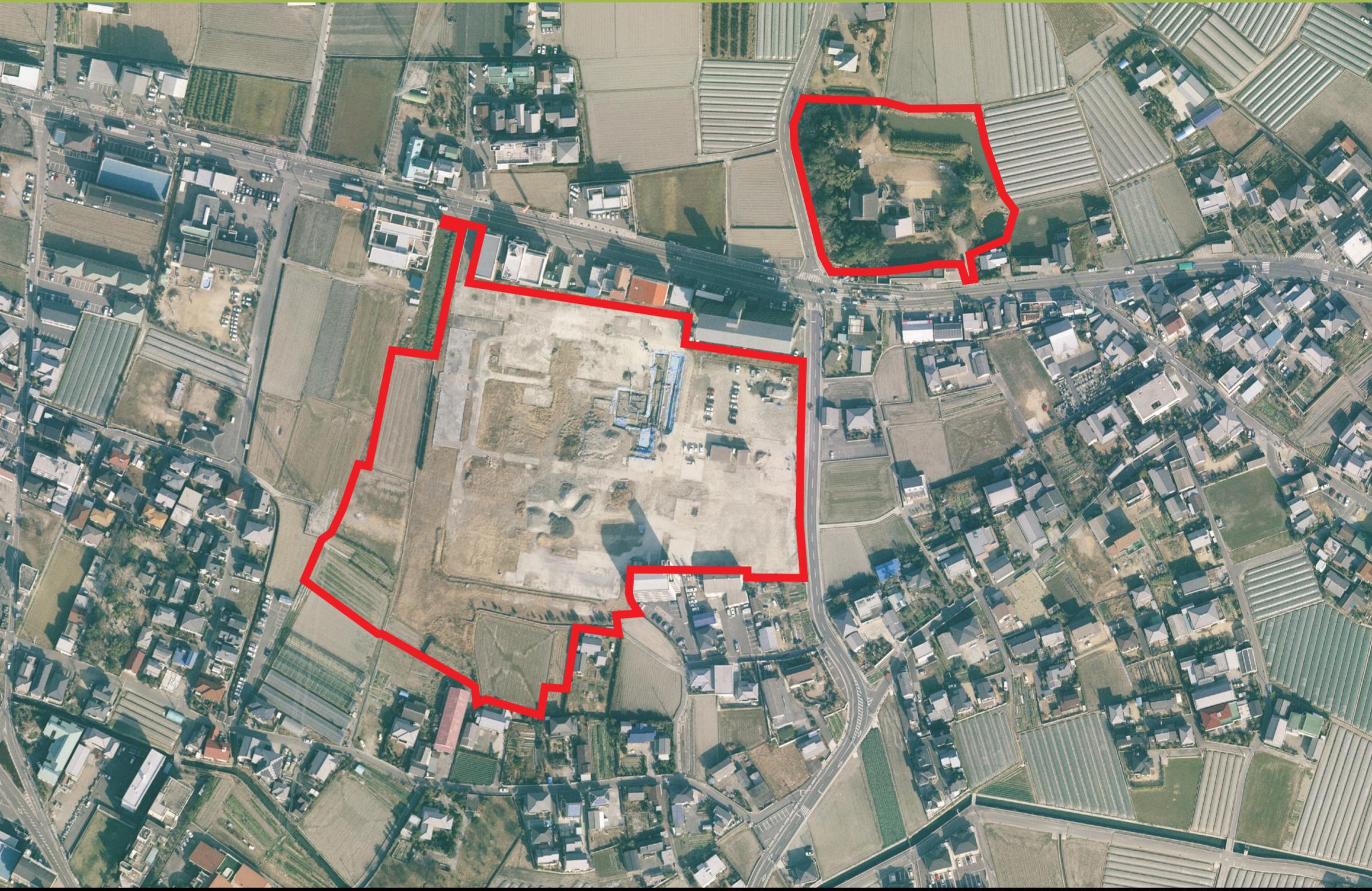
ゲンちゃんと学ぼう 德島の歴史舞台

しょうずいじょうかんあと 勝瑞城館跡 戦国時代 [板野郡藍住町]

B.C. 5世紀 10世紀 15世紀 20世紀

学習する時代

勝瑞城館跡では16世紀後半に阿波や近畿地方で活躍した三好氏の屋敷跡や城跡が見つかっています。溝で囲まれた屋敷の中には、大きな建物の跡や庭園の跡がありました。中国産の焼き物や京都周辺で作られた焼き物、茶道の道具など、いろいろなものが出土しています。また城跡は、深く幅の広い溝と高い土手に囲まれていたことが分かっています。このような発見は、当時の人々の生活や、勝瑞城館跡の性格を考えるときに重要な資料になります。



がんちゃんといとくじ 徳島の歴史舞台

しょうずいじょうかんあと 勝瑞城館跡

せんごく いたの あいづみ
戦国時代 [板野郡藍住町]

学習のねらい

(1) 徳島県内に残る城跡や史跡を通して当時の社会情勢について考えさせる。

(2) 戦国時代の大名の文化、生活などについて考えさせる。

解説

板野郡藍住町勝瑞は室町時代後半に阿波国守護細川氏が守護所を置いたところで、天正10年(1582年)に土佐の長宗我部氏によって阿波が制圧されるまでは、政治・文化の中心地として栄えていました。守護町勝瑞遺跡は室町時代後半から戦国時代までの細川氏、三好氏が営んだ町全体という広い範囲にわたる遺跡で、勝瑞城館跡はその一部です。

勝瑞館跡は、16世紀後半、細川氏に代わって阿波を支配した三好氏の館跡で、濠に囲まれた複数の区画で構成される館であったことが確認されています。区画内からは大型の建物跡や、二つの庭園遺構などが見つかりました。館跡では中国産や朝鮮半島産の陶磁器、国内の陶磁器、銅銭、金属製品、武具などさまざまな遺物が出土しています。注目されるのは、海外から持ち込まれた陶磁器類や京都周辺の技術で作られた素焼きの皿(かわらけ)、茶道具などが出土することです。これは細川氏・三好氏が、織田信長の上洛以前には京都を支配しており、近畿地方での大勢力であつたことや、足利將軍家の一員が阿波に住んでいた(平島公方)ことなど、京都周辺との強いつながりがあつたことが一因であると考えられます。

勝瑞城跡は、館跡の北側に位置しています。東西約105m、南北90mのいびつな四角形で、周囲には幅13mの濠が巡り、基底部からの高さが2.5mの土壘を備えていました。この城は16世紀末に作られたもので、当時、県内各地に同じような城が多く存在していました。土佐の長宗我部氏との戦いが激しくなる時期であるので、これらの城はそのための防御施設であったと考えられます。

勝瑞城館跡は、このような調査成果によって、平成13年に国史跡に指定され、平成18年にはその範囲が拡張されています。

■守護町勝瑞遺跡の範囲と勝瑞城館跡の位置

(国土地理院発行1/2.5万地図「板東」をもとに作成)



■室町～安土桃山時代の主な城跡、史跡

